

伊藤原子力委員会委員の海外出張について

平成21年10月27日

1. 出張先：ロシア（モスクワ等）、ウクライナ

2. 出張期間：平成21年10月28日（水）～11月4日（水）

3. 渡航目的

モスクワで開催される国際会議 AtomEco に出席し、パネルセッションにおいて日本の原子力政策に関する講演を行うと共に、アンガルス
ク国際濃縮センター（ロシア）及びチェルノブイリ原子力発電所（ウ
クライナ）の視察及び関係者との意見交換を行う予定である。

4. 主要日程

10月28日（水）	日本発 → モスクワ着
29日（木）	AtomEco 出席、講演 モスクワ発 → ウクライナ着
30日（金）	チェルノブイリ原子力発電所視察 ウクライナ発 → モスクワ着
11月 1日（日）	モスクワ発 →
11月 2日（月）	イルクーツク着 アンガルスク国際濃縮センター視察
11月 3日（火）	イルクーツク発 → モスクワ着 モスクワ発 →
4日（水）	日本着

以 上

1. AtomEco 2009 International Conference and Exhibition

AtomEco は、放射性廃棄物管理、使用済み燃料管理、廃止措置及び除染、環境復旧の分野の最新の動向と実績についての議論を目的として、2007 年から、ロシア国営公社「ロスアトム」主催により開催されており、今回が 3 回目になる。

この会合には、国際原子力機関（IAEA）、世界原子力協会（WNA）、AREVA 社などが協賛しており、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）などの国際機関や多くの原子力関連企業が参加する予定となっている。

2. アンガルスク国際濃縮センター

アンガルスク国際濃縮センターは、核不拡散を維持しつつ、原子力平和利用を目指す国に対して核燃料の供給を保証する国際センターをロシアに設立するという 2006 年 1 月のロシア・プーチン大統領（当時、現首相）の提案に基づき、各国の出資によりアンガルスクに設立された機関である。同センターでは、各国からの依頼を受けて低濃縮ウランの供給を行うとともに、低濃縮ウランを供給保証用に現物備蓄する予定。

3. チェルノブイリ原子力発電所

チェルノブイリ原子力発電所 4 号炉は、原子炉の設計上の問題と人的ミスの双方の原因により、1986 年 4 月 26 日に爆発事故を起し、放射性物質が放出された。

現在 4 号炉を覆っている建造物（石棺）は、年々老朽化が進み、放射能漏れの危険があるため、これをアーチ型の新しい石棺で覆うこととなっている。完成予定は 2012 年とされている。